

# 歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

金浦の初夏の風物詩「ひったか」は、白い幟を立てた東の行者山と、赤い幟を立てた西の妙見山に、それぞれ提灯で絵模様を描き、東西で構図や美しさを競い合う伝統行事です。火を高くたたくことから「ひったか」と呼ばれるようになったといえます。図柄は当日まで秘密にされますが、その時々のお話が題材になることが多いようです。同じく文化財に指定されている船競漕「おしぐらんご」と一体の行事とされています。

もとは旧暦五月五日、端午の節句の行事でしたが、現在ではそれに近い土曜日の夜に「ひったか」が、翌日曜日の昼間に「おしぐらんご」がおこなわれます。今年の「ひったか」は六月十六日の土曜日に、「おしぐらんご」は翌十七日の日曜日に予定されています。

伝承によると、寿永三年（一一八四）、西浜にあった陶山城にこもる平家方と、讃岐国から押しよせて来た源氏方との間に戦が行われたとき、平家方は付近の山にかり火をたき大軍に見せかけて源氏方を退散させたといひ、ひったかはこの故事に由来するといわれています。



## 金浦のヒツカ

笠岡市指定重要無形民俗文化財

## 展覧会と行事のご案内

### さまざまな清水比庵

6月9日(土)～7月16日(祝)  
入館料：一般500円  
(65歳以上の人は入館無料です。年齢を証明できるものを持ってきてください)  
休館日：毎週月曜日

### ギャラリートーク

展示作品を解説します。  
6月10日(日)、  
7月1日(日)・14日(土)  
13:30～14:30

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

## 竹喬美術館の光彩 54



## 内海

小野竹喬 作  
昭和25 (1950) 年頃  
26.3×34.7cm

「商売がらとくにといいわけではないのですが、笠岡の風光はいいと思います。段々になった山畑、点在する松、明るい土壁の色など若いときから印象派の点描様式を使い、盛んにかいたものです。いまでも麦刈前の畑をかきたいと思います」  
(竹喬のことば)

若い日の竹喬が、油絵の技法である点描を用いて描いた笠岡の風景のほとんどに、海が描きそえられている。山畑や緑の松、実る麦、そのいづれもが瀬戸内の海や風、明るい日差しと結びついて記憶の中にあつたのではないだろうか。

## 今月の表紙

市重要無形民俗文化財である真鍋島伝統の「走り御輿」が5月4日に行われました。

八幡神社でおはらいを受けた3基の御輿は、鮮やかな大漁旗で飾られた漁船で本浦港へ。各御輿8人の担ぎ手により、人だかりのできた路地や浜の大通りを「おりやー」という掛け声とともに全速力で駆け抜けました。

当日はたくさんのお客様が訪れ、その勇ましい姿に、感嘆の声を上げていました。

## 係から

広報担当になって初めて2ページ半の紙面作成を任せました。届いた原稿を加工して紙面を作るときは、慣れない作業に失敗ばかり。取材にいかけても思うように行かなくて反省しきり。原稿を書いたら字数が多すぎて、書くことより縮めることに時間がかかりました。何とか締切に間に合いました。

6月号をお届けします。(良)



土屋武之 笠原良一

発行日／平成19年6月1日  
発行／笠岡市役所  
編集／企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス：[kouhou@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:kouhou@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています